

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190100107), 法人名 (社会福祉法人 愛全会), 事業所名 (グループホーム ハートハウス南円山 (プロヴァンス)), 所在地 (札幌市中央区南10条西23丁目2-13), 自己評価作成日 (平成25年8月), 評価結果市町村受理日 (平成25年12月2日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中央区という中心部に位置しながらも、事業所周辺は学校もあり、子供たちの声の絶えない、緑多い長閑な雰囲気を感じられるグループホームです。町内会との関係も良く、町内会活動(ふれあい子育てサロン・町内清掃・運動会・新年会等)にも、ご入居者様が参加しやすい環境にあり、事業所では町内会と協力の元、『認知症』に関する講座の開催や総会の出席、又、所属町内会以外の方々の会合に当事業所を使用して頂く等、地域の方々の協力を得て、活動しております。職員の活動としましては、法人内外問わず、年間50本近い研修の開催と参加を積極的に行い、平日頃よりご入居者様へのケアサービス向上の努力をしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0190100107-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年10月30日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建て事業所の1階は、町内会や近隣住民に無料開放している地域交流スペースで、キッチンやトイレなど必要な設備が整っており、所属する町内会以外の、地域住民の会合にも利用されている。2階・3階がグループホームになっており、利用者は美しい絵画・家具・調度品に囲まれ、自分の家にいるように、ゆったりとした時間を過ごしている。居室は、各部屋ごとに壁紙を変え、部屋間違いがないように配慮しており、回廊式の廊下は歩行運動に役立つ。キッチンは、アイランド型を採用し、利用者が調理から後片付けに至る1連の流れに、参加しやすいように工夫している。床・トイレ・洗面台・手すり・ドアノブなど、事業所内の清掃や消毒には、インフルエンザ等のウイルス対策にも有効な、次亜塩素酸水を使い効果を上げている。管理者及び職員は、利用者が四季の移り変わりを実感出来るように、季節に合わせた外出事を計画し、実行している。また個々の希望に合わせ、買い物や近隣散歩等に出かけている。恵まれた住環境の中で、それぞれの利用者の特性に合わせたケアを実践している、温かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、交流を深め、支え合う暮らしの中で、一日一笑」をカンファレンスなどで理念に基づいてケアをしているか確認している。また、その人らしい生活が笑顔で過ごせるよう支援に心掛けています。	家庭的な環境のもとに、職員は豊かな知識と技術で利用者を支え、一人ひとりが笑顔で生活ができるよう、会議等で理念を共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内活動には積極的に参加しております。職員が町内総会に参加し、ご入居者様と一緒に新年会・町内清掃・子育てサロン等に参加しております。	子育てサロン・清掃活動・防災訓練等の地域行事に参加している。またボランティアや中学生の「職場体験」の受け入れ等、地域と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常生活の様子を運営推進会議や消防訓練に参加して頂き、認知症の方の理解を深めて頂く事に努めております。又、運営推進会議では、勉強会として地域の方々へ認知症の理解・グループホームの支援をご紹介します。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、生活の様子や事故報告をお伝えすると共に、地域の代表の方や消防の方々にも意見を頂き、サービスの向上に活かしております。	運営推進会議では、行事報告と予定・防災・事故報告などが話し合われており、参加者からも前向きな意見が出ている。さらに認知症や介護の勉強会を開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や各区の連絡会議に出席し、他事業所の方々との交流や情報交換をし、サービスの向上に努めています。また市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。	市や区の、グループホーム管理者連絡会議等に参加し、行政方針の理解に努めている。市主催の研修会には積極的に出席し、常に利用者本意のサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における研修・マニュアルを通し、職員一同日頃より努めています。法人内研修年間計画の中には研修を設定し、積極的に参加の他、外部研修による参加も行っております。	外部研修や、内部研修で学ぶ機会がある。ミーティングやカンファレンス等で具体的な事例について検討しており、全職員が身体拘束の弊害を認識し、共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止システムによる研修会にスタッフが参加し理解浸透に努めている。法令遵守に向けた研修を行っている。		

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修により理解を深めるように努めています。必要性がある場合にはその都度関係機関と協力していけるよう体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧に説明させて頂き、入居者様やご家族の疑問や不安をお聞きし、理解納得した上でサインを頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱の設置やご家族へのアンケートを行い、意見要望を取り入れ反映させています。またご入居者様、ご家族様の様子から気持ちを汲み取る努力を行い、ご家族様ご来訪時には、お話しする時間を多く設けております。	玄関入り口に『意見箱』を設置し、家族の来訪時には、十分話し合いをしている。運営推進会議には、利用者家族が多数出席しており、意見・要望は事業所の運営やケアに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の愛全会管理者連絡会議があり意見要望を伝える機会を設けて、反映させています。また自己申告書により職員の意見や提案を聞く機会があります。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに、年2回人事考課を実施し個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得(自己研修)時に時給アップをおこなっています。年に2回人事考課を行い、自己評価を自身の実績を基に、面談を行っています。又、随時必要に応じ面談を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた(新人・現任・計画作成者・管理者)内部研修を行うと共に、中央区でのスタッフ研修や外部での研修の情報を収集し受講できるようにしています。又、法人内・事業所内で研修報告をする事で、職員間で情報共有しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区連絡会や研修の参加を始め、他事業所間での職員見学を始め、法人グループホームとの勉強会、委員会、各ユニットへの実習研修を行い、互いに意識を持ってサービス向上に活かしています。		

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	入居前にご本人とお会いし、ご家族様を交えてお話し、馴染みの関係を入居前に少しでも築ける様努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお話しさせて頂いています。出来る限り連絡を取りお話しする事で、ご家族様の心情を伺えるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の思いや現状を、出来る限り引き出す努力をし、その人らしいケアプランを作り、ご家族様が安心して頂けるように努めています。また、常時思いを伺う事でケアプランに活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主役がご本人であることを職員間で強く認識し、ご本人の役割、力の発揮をしっかり持って頂き、ご本人のペースに合わせた生活をする事で、疑似家族の関係になるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは面会時、電話連絡などで常に連絡をさせて頂き、情報交換をする事で共有の時間を大事にし、共にご本人の生活の支えになれる様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の生活習慣を変えない様友人の来訪や外出をご家族様に限らず、職員も一体となり、支援しています。美容室や買い物、ご家族様との会食の場を継続し続けるよう努めています。	家族や友人と、買い物やレストランで食事等、以前からの生活習慣を大切にし、馴染みの関係を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士が交流を持てるよう、レクリエーションや外出の場を作っています。また、個々での交流の場も大事にして頂ける様環境を作り、時に職員の仲介にて、関係作りをしています。		

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、病医院へのお見舞いや関係機関を通じ、ご家族へ挨拶などさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活状況を踏まえ、アセスメントを行い、日々の関わりで、ご本人の表情、言動を観察する事でご本人の希望を聞き入れ、思いを引き出す様に努めています。	利用者の担当職員が決まっており、会話や日常の様子から、本人の思いや意向をくみ取り、希望に沿った支援が行われるように本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報収集に日々努めています。また、ご入居時にはケアマネジャーなどから過去の様子を伺っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々自由に生活して頂く環境を作り、ご本人の言動・行動から生活リズムを作って頂ける様、努めています。また、体調や気分に合わせて家事、趣味活動をして頂く事で、アセスメントに活かしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人の気持ちを聞き出し、ケアカンファレンス時には事前の聞き取り(ご家族・医師・看護師)を行い、より良い計画書作成に努めています。	身体の変化や、本人や家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録をケアプランを基に記録し、他申し送り・気付きノート・家族連携表を、モニタリング・評価や必要に応じて、記録に用いたアセスメントを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の要望も含め、ご家族様の状況に合わせ受診や美容室など、職員にて対応させて頂く事もあります。当ホーム車両も使用しています。またご本人ご家族様から気軽に依頼して頂ける関係づくりに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わり場として、町内会活動には、積極的に参加させて頂いています。また事業所内で行われるボランティア等も近隣の方々に参加して頂き、関係づくりに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師・看護師との密な医療連携を行う事で、ご本人・ご家族様が安心して受診を継続できる様に努めています。	利用者希望のかかりつけ医には、入居後もそのまま受診できるように、通院時の送迎や付き添いをし、家族には病状の詳細を報告している。	

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理(訪問看護師)の際には、心身の状態について報告しています。また、緊急時以外でも日頃から相談出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に関しては、医療機関に介護情報を書面、口頭で提供しています。またご本人の状態に合わせた退院に向け、医師・医療関係相談員・ご家族様と、相談や話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて説明を行い、医療連携を十分に活用し、ご本人やご家族様にとって最良のケアを行う様に努めています。又、看取りケアに取り組み為のマニュアル作成・職員教育を行っております。	重度化の指針は文書で確認し、家族・医師・看護師と連携してチームとして、終末期に対応できる体制ができています。看取りケアのマニュアルを作成し、職員全員の周知を図り、研修会も行って看取りの経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの整備・研修を行っています。また事業者内での連携を用いた緊急対応に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の実施を基に、入居者様・近隣の方々を交えた避難訓練を実施しています。又、災害時対応の研修にも参加しております。	利用者と近隣住民参加で、年2回避難訓練を実施している。事業所には、非常用外階段や避難用滑り台が設置しており、災害時備蓄品も用意している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人が安らげる声かけを心掛けています。また、ご本人の羞恥心に十分配慮しケアにあたっています。	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや対応に配慮しており、個人記録については、鍵の掛かる棚で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との信頼関係を築く努力を、日頃より心掛け、ご本人が訴えやすい雰囲気づくりをしています。また個人の状態に合わせ、気持ちを読み取る努力に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分に応じた食事時間や入浴を行えるように努めています。外出に関しても、勤務時間に囚われずに柔軟に対応しています。(花火見物など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さり気ない声かけをする事で、整容をして頂いています。定期的にビューティーボランティアにも参加し、お洒落心を大事にしています。外出の際には、ご本人と共に外出準備を楽しんで行って頂いております。		

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のふれあいから、ご本人の嗜好を聞き出すことに努めています。家事を仕事として行う方、楽しみとして行う方、それぞれに応じた声かけをしています。	利用者の嗜好を重視した食事を提供しており、個々の嚥下や咀嚼状態に合わせた、ソフト食も提供している。食事の時間も会話が弾むように、職員も共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューを提供しています。体調や気分による食欲減に関しては、別メニューや好みの物を用意し対応し、時には医師と相談の上、栄養剤の服用をして頂きます。水分量の摂取は一日1300ccを目安にご本人が摂取しやすい工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きへの声掛け、準備などを行い歯磨きをして頂き、義歯の方への毎晩の消毒も行って頂いております。また必要に応じて、訪問歯科衛生士による口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、個人の排泄パターンにあわせたトイレへのお誘いなどを行っています。排泄パターンを把握した上でオムツから布パンツ使用を試みています。	心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。おむつを使用していた利用者が、布パンツに変更する等、一人ひとりの状態に合わせた自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を常に意識しています。また日頃よりレクリエーションを通じて、体を動かす事で血行を促しています。医師へ相談し下剤調整もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を伺ったりし、入浴をして頂く様に努めています。希望に応じ1日おきの入浴や夕暮れ時間の入浴も柔軟に対応しています。	利用者の体調や希望に合わせて、好きな時間や曜日に入浴できるよう支援しており、毎日入浴することも可能である。入浴による体力の消耗を減らし、気持ちの良い入浴ができるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムを把握する事で、リズムが崩れない様休息時間を取って頂いたり、夜間帯では飲み物や雰囲気や睡眠のお誘いを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方都度の確認を始め、必要に応じ薬剤師からの指導を受けています。また定期的に薬に関する研修を行い、薬に関する知識を得、日々のケアに活かしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々笑顔のある生活が送れる支援をしています。個人個人の特性を認識する事で、その人の喜びとは何かをアセスメントし、ケアに活かしています。		

外部評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の空気に触れることを日々の目的とし、出来る限りの外出を支援しています。また、外出行事も定期的に行い、出かける事の楽しさを味わって頂いています。	各ユニットの、ウッドデッキやベランダを利用して、お茶を飲みながらの外気浴や、個々の体調や希望に合わせた散歩や買い物などで、外へ出る機会を奨めるなど工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布管理されている方に関しては、近隣スーパーでの買い物や、美容関係の支払いを職員同行のもと、ご自身で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、ホームの電話を使用しています。なかなかお会いできないご家族様への手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に努め、季節に合った装飾や花を飾る事で、安らいで頂く工夫をしています。また照明には目に優しい明りを使用し、食事時間は軽音楽で雰囲気づくりをしています。	居間には美しい絵画や利用者の作品が飾られ、大きな窓からは公園や近隣の住宅が見渡せ、癒しの場となっている。温湿度や換気も適切に配慮されており、空気清浄器を随所に置き、心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人が居心地の良い環境を作る様に努めています。ちょっとした空間で、交流が出来るよう、その時に応じてテラス等を作り提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お一人の時間を大事に過ごせるよう、家具配置や危険防止などを、ご家族の協力を得て行っています。	居室は、家族とともに危険個所がないかなどの点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援しており、個々の利用者の好みに合わせた、インテリアになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・バス・洗面所、多目的室など共有で使用する場所を含め、絵や文字で理解できる工夫を行い、ご本人で見えて行動して頂き、体で覚えて頂ける様、見守りケアを重視しています。		